

【R 1 8】 会話形式ノベル

『宝くじの女神』

～手コキされた男子が宝くじに当たる～

作：七条右京

【登場人物】

・ ^{みうら おうか} 三浦桜花：女子生徒（宝くじの女神）

・ ^{しまもと こうた} 島本康太：男子生徒

・ ^{やだ あんな} 矢田杏奈：女子生徒

・ ^{たなか ゆい} 田中由衣：女子生徒

島本康太は、同じクラスの三浦桜花のスカート捲りをした。

パンツをみんなに見られて恥ずかしい思いをした桜花は、康太にお仕置きをする事にした。

その為に今日は、放課後に教室に残って貰った。

三浦桜花：

「よくもこの間は、スカート捲りをしてくれたわね」

「みんなにパンツ見られて、とっても恥ずかしい思いをしたんだから」

「許さないわよ」

「だから、今日は島本君に罰を受けて貰うわ」

「いいわね」

島本康太：

「え～、そんな」

「もう終わった事だから、いいだろう？」

「この間、ちゃんと謝ったじゃないかよ」

桜花：

「駄目よ、私の気が済まないのよ」

「島本君、覚悟しなさい」

「ねえ、杏奈、由衣、動かない様にしっかりと

押さえててよ」

康太：

「頼むから止めろよ」

**桜花は、康太のベルトを外し、ファスナーを下
げ、ズボンを下ろした。**

そして、容赦なくパンツも下げた。

康太のアンダーヘアとおちんちんは丸出し状態になった。

桜花：

「きゃっ、なにこのおちんちん、ちっちゃ」

矢田杏奈：

「ほんとだ、ちっちゃ」

「指～～」

田中由衣：

「こんなちっちゃなの、初めて～」

「受ける～～」

康太：

「恥ずかしいから」